

# はくぶつかん おうちで博物館ぬりえ かいせつ

## 【006 カラスアゲハとアオスジアゲハ】

**解説**：カラスアゲハもアオスジアゲハも、三浦半島にくらすアゲハチョウのなかまです。

カラスアゲハ(図案左)は、幼虫がカラスザンショウなどミカン科の植物を食べます。翅は黒く、青～緑にかがやく鱗粉がちりばめられています。地面において水をのんでいることがあります。

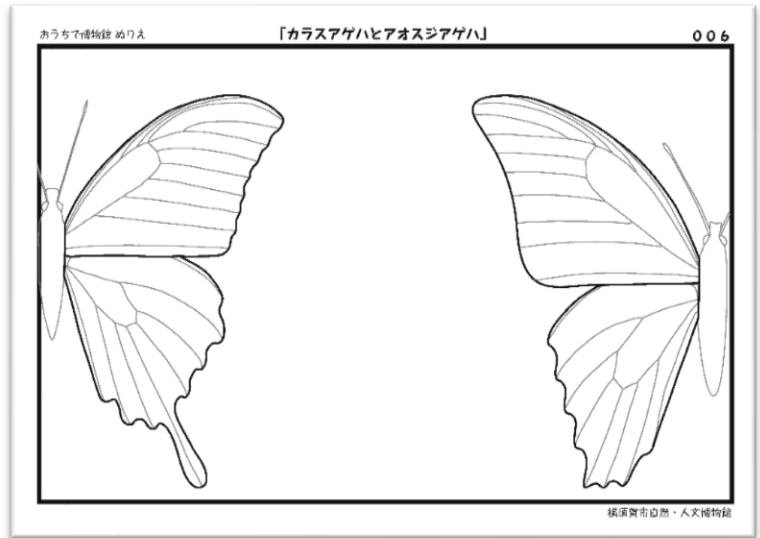
アオスジアゲハ(図案右)は、幼虫がタブノキなどのクスノキ科の植物を食べます。翅にはタテに緑がかかった水色の帯が目立ちます。アゲハチョウのなかまでは小さめの体ですが、とてもすばやく飛ぶことができます。

**展示**：博物館では、自然館1階「昆虫類」のコーナーで見られます。

**対象**：小学校低学年(1～3年生)向け。

**コツ**：図案には、チョウの体、片方ずつの翅のりんかくと翅脈がかかれています。翅脈とは、翅をひろげて支えているもので、わたしたちが使う傘の骨とおなじような役割をしているものです。翅の模様をぬるときは、この翅脈やりんかくを参考にすると、もようの場所をきめやすいでしょう。

カラスアゲハは全体的に黒っぽいのですが、よく見ると、青～緑にかがやく鱗粉や白や赤の鱗粉などによって複雑なもようがみられます。図鑑をみると、オスとメスのちがいや出現する季節によって、もようがちがうことが分かります。アオスジアゲハでは翅の水色の帯がとくちょうになりますが、よくみると翅脈にそった黒い線でとぎれていることがわかります。



ぬりえ図案「カラスアゲハとアオスジアゲハ」(実際はA4判)



カラスアゲハのオス(左)とメス(右)



水をすうカラスアゲハ

アオスジアゲハ(左)と幼虫(右)



アオスジアゲハ